

【お知らせ】

第34回町解放文化祭 日程などが決まりました

8月1日、第1回実行委員会を開き、実行委員長に西村通さん、副実行委員長に長谷川真由美さんが選任され、日程は11月5日と6日に決まりました。

我が家の自慢展などの出展作品や演芸大会の参加者を募集中。多くの皆さんの応募をお待ちしています。



実際に現地を見ながら話を聞く

隣保館だより

編集 下榎隣保館 〒689-4526 日野町下榎157番地1
電話：72-1191 (FAX 兼)
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp

中学生が江府町で郡交流会 サントリーの工場などを見学

日野郡内の中学生が、互いの町を歩き来し学び合う交流会が、8月10日、江府町を会場に開かれました。

午前中は「サントリー奥大山ブナの森工場」で、徹底した品質管理や厳しい検査体制など製品ができるまでの工程を見学。環境・自然との共生を目指し、限りある資源エネルギーを無駄なく使い切るための工夫などを学びました。

また、午後からは現地学習として江府町の明道館(江尾)を訪れ、上前梅夫館長の話を真剣に聞きました。

昼食では、楽しく会話したり、トランプで遊ぶなど、生徒同士は積極的に交流していました。



皮を張る行程では大人の手を借りた

小学生が日南町で奥日野交流会 伝統工芸の太鼓づくりに挑戦

8月11日、日南町地区学習会の児童たちとの奥日野交流会が、日南町を会場に開かれました。

まず、一人一人自己紹介。その後、4班に分かれて昼食のカレーづくりで親睦を深めました。野菜を切るなど、みんなで協力しておいしいカレーができあがりしました。

午後からは、日南町の伝統工芸「太鼓づくり」に挑戦。中には皮のにおいが気になり、なかなか作業に集中できないでいた子どもたち



完成した太鼓は宝物

ちも次第に慣れ、2時間かけて、かわいい太鼓が完成しました。

子どもたちからは「カレーづくりが楽しかった」「太鼓づくりは難しかったけど楽しかった」という感想が聞けました。とてもよい体験ができたと振り返ります。

自分たちで作った太鼓の音は格別。解放文化祭などで展示し、その出来栄を多くの人に見てもらおうと考えています。

10月の学習講座予定

- ★セラバンド体操 (高橋伸也さん) 老人憩の家
10月12日(水) 10:30~11:30
- ★生け花 (草月流: 生田清子さん) 下榎集会所
10月22日(土) 13:30~16:00
- ★クレイフラワー (妹尾仁津美さん) 下榎集会所
【3回シリーズの2回目】
10月3日(月) 13:00~15:00
【3回シリーズの3回目】
10月17日(月) 13:30~15:00

【申込みおよび問合せ】

下榎隣保館 (電話 72-1191) まで

ぽかぽか教室のご案内

- 日時 10月12日(水) 9:30~
- 場所 下榎老人憩の家
- 内容 お口の健康チェック

※ぽかぽか教室に引き続き、セラバンド体操を行います。

【参加報告】

第36回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会

～8月3、4日に倉吉市ほかで開催。述べ49人が参加～



人権問題の取組みが報告された

同和問題をはじめさまざまな人権課題を解決し人権尊重社会を実現しようと、第36回目の研究集会が倉吉市を中心に9会場で開催された。日野町からも二日間で延べ49人が参加して、初日は2000人以上の全体集会成为となった。

第一日目の基調提案では、インターネットでの部落差別や差別扇動発言の現実、またDV・セクハラなど女性に對にする問題、ノーマライゼーションの社会づくりと障がい者の人権、子どもへの虐待や性暴力、外国人やハンセン病患者、性的マイノリティの人に対する偏見、病気の人の社会参加、高齢者や拉致被害者、えん罪被害など暮らしの課題など、さまざまな人権侵害の実態が報告され、これらの課題解決のため「人権文化社会の創造」「就学前・学校教育の創造」「共生社会の創造」「部落史の研究・学習講座」の4つの分科会で、地域や団体、保育所

や学校、また前述のさまざまな人権課題を9つの分科会で研究することが提案され、参加者は思い思いの分科会へ参加した。

主な参加者の感想(抜粋)

▲講演でも話がありました。差別が見えにくくなっている状況「同和」という文字から「人権」へ。社会全体の流れなのかもしれないが、部落差別の現実から学ぶ事が原点であり、同和教育はなくてはならない基本テーマだと再び強く感じた集会だった。

▲鳥取県立皆成学園(社福) 希望の家、NPO法人はーとぴあ創造の皆さんによる「みんなちがってみんないい」の公演では、ダンスや和太鼓・詩や歌を披露され、力強い音や動きに圧倒され、子どもたちの生き生きとした笑顔、躍動の演技に魅了された。合間に演技者から呼びかけられる、暖かい言葉の一言一言が胸に深く刻まれ、社会全体でサポートしていく体制と共に生きていく人間同志の理解が必要だと強く感じた。

▲この集会の名称は当初「同和教育鳥取県研究集会」であったが、この10年間で、「人権・同和教育鳥取県研究集会」となり、33回からは「人権尊重・・・鳥取県研究集会」と変わってきている。講師の黒川みどりさんは「名称の変更が、部落問題に関する実践を薄めるものであるならば、部落差別が一つでも現存する現状にあって、認め

がたい」という趣旨の意見を述べていた。私も同じ意見である

が「部落差別がどのような場面で、どのような形で起こっているのか」という現実認識が、あまりにも不十分である」という私自身の実態を振り返らせてくれた。「部落差別が見えない、見えにくくなっている」といわれるが、インターネットによる差別事件(ネット版地名総監)、土地差別事件など被差別部落を名指しした差別事件がある。

これは、単なる個人の意識が薄いため生じている事件といえるのだろうか? 民衆の意識の不十分さがあるのは事実だが、その民衆の意識が作られる、あるいは再生産する社会的な背景なのか? という点で、「差別の現実から深く学ぶ」必要性を改めて強く感じた。「人権尊重社会を実現する・・・」の名称であったにしても、部落解放運動の教訓や部落差別の現実から、実践や運動を検証していく必要性を感じた。人の心が問題だと、心がけで解決するのだろうかという点で、また、差別の現実から私自身の意識を問い、それといかなる社会的な関係があるのかを明らかにする作業を継続していくことと

考えた。

▲男女共同参画では、少数であったも女性の意見が反映されるのが重要であると学んだ。そのためには、特に男性が意識を変えなければならぬと考える。

「女性性は家事」という意識がまだ残っている。女性の社会参加のためには、積極的に参加できる家族や地域の協力的なしでは実現できないと感じた。

人権啓発講演会および第36回町人権・同和教育研究集会を開催します

と き: 10月19日(水) 午後1時～午後5時

と ころ: 日野町文化センター

スローガン: 人権尊重のまちづくりをしよう

人権啓発講演会 午後1時20分～午後2時50分

演題: 人権のまちづくり(仮題)

講師: 和田芳治さん(元広島県総領町教育長/人間幸学研究所所長)

平成15年(まちづくり講演会)、16年(町成人式)に日野町で講演されました。

最近、NHK総合テレビにたびたび出演されています。



昨年のシンポジウムの様子

研究集会=シンポジウム 午後3時～午後4時50分

テーマ: さまざまな地域課題から、人権尊重社会の仕組みを考えよう
～助け上手、助けられ上手になろう～

報告①同和問題が人権尊重のまちづくりに伝えようとしているもの(差別の現実から)

- ②災害を乗り越える人権の地域づくり
- ③高齢者を支える地域活動(自立/参加/ケア/自己実現/尊厳)
- ④こども15年プラン(生きる/育つ/守られる/参加する権利)

【お問い合わせ】

詳しい内容、参加申込などは人権センター(72-2107)まで

内容

人がどんな状況や状態になっても自立し、参加し、認められ、大切にされ、保護され、自己実現を目指して暮らせる。そのようなお互いの認めあいと助け上手、助けられ上手な地域社会が私たちの願いです。今回は、部落差別や高齢化社会のさまざまな現状から、みんなで支えあう地域の取り組みをどのように進めたらよいか考え、話し合っていたいただきたいと思います。

また、各自治会の小地域座談会でも、この研究集会の内容をそれぞれの地域の実情に合わせて話し合っていたいただき、人権尊重のための地域活動に是非活かしていただきたいと思います。